

「継続は力なり」

校長 安藤 徹



1学期も後半、6月に入りました。関東地方の梅雨入りは例年であれば6月7日とのことですが、最近になり今年の梅雨入



りは早いのではないかとされています。春と夏にはさまれた雨の季節、「梅雨」。どんよりとした天気には気持ちが晴れない人も多くいるかもしれませんが、梅雨には梅雨にしか味わえない風情もあり、その一つが梅雨の時期に咲く美しい花々だと思います。紫陽花のように雨の中で咲き誇る花々の姿には、他の季節にはない一風変わった美しさや味わいを感じ取ることもできます。

ところで、すでに4月にもお伝えしたところですが、今年度の岩戸支援学校の学校運営の柱は引き続き「見える化 ⇒わかる化⇒できる化の推進と**継承**」とし、今年度はさらに『**持続可能な学びの充実と学校作り**を目指して』というサブテーマを設定しています。

このテーマは現在までの約3年間にわたるコロナ禍の経験から「学校」というものの存在が生徒や保護者の皆さんにとっては今もこれからも絶対的に不可欠なものであり、どんな時にも学校は学びを継続させ、充実させていくことの重要性をあらためて教えられたこと、さらに令和2年度からの岩戸支援学校の教育活動に係る様々なマイナーチェンジによる変化を単に今のことだけに終わらせるのではなく、現在の取組みを長期間継続し、その中で成果や課題を継承し、さらに学校を発展させていくことが必要だろうという理由から設定しました。

ところで、ここ数年間で「SDGsの持続可能な開発目標」に関連して「持続可能な〇〇」という言葉がだいぶ世の中に浸透してきました。ただし、何事においても「持続させる」または「継続させる」ことの大切さは分かっている、実際にそうしていくにはかなりの労力があるというのも事実です。



もちろんそれまでできなかったことや難しかったことを一度だけでもできるようにするためにもかなりの労力や努力が必要ですが、できる状態を維持し、それを長期間継続させ、最終的にはそれを定着させていくためにはさらに多くの努力や強い意志が必要なのではないかと考えています。



「継続は力なり」という言葉をみなさんも一度は聞いたことがあると思います。しかし、この言葉には異なる2つの解釈が存在することをご存じでしょうか？

一つ目はもちろん「何かを継続し、努力し続ければ、できなかったことや、難しかったことがいつかはできるようになる」という解釈です。つまり「継続すればその結果として力がつく」ということを表しています。

そして、もう一つは「物事を成し遂げるまであきらめずに取り組み続けられることはその人の優れた能力のひとつである」という解釈です。つまり「何かを継続できること、そのこと自体がその人の力である」という意味にもとらえることができるというものです。

皆さんにも岩戸支援学校での3年間で何かを継続することの大切さを感じ、何か自分が熱中できることを継続していくことができれば、本当に素晴らしいことだと思っています。

令和5年6月1日